

2017 年 12 月 19 日

1. 基本情報

- (1) 国名：パキスタン・イスラム共和国（以下、「パキスタン」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：イスラマバード
- (3) 案件名：パキスタン医科学研究所機能強化計画（The Project for Strengthening the function of Pakistan Institute of Medical Science）
- (4) 事業の要約：本事業は、国内有数の第三次医療施設であるパキスタン医科学研究所において、不足・老朽化した医療機材を整備するとともに、小児病院、母子保健センターを拡充することにより、保健・医療サービスの質の向上を図り、もって同国国民の健康増進に寄与することを目的とする。

2. 事業の背景と必要性**(1) 本事業を実施する外交的意義**

パキスタンは、世界第6位の人口を有し、アジアと中東の接点に位置するという地政学的重要性を有するとともに、テロ撲滅に向けた国際社会の取組において、重要な役割を担っている。このため、同国の安定的な発展は、アフガニスタンを始めとする周辺地域、ひいては国際社会全体の平和と安定に資する点から極めて重要。この観点から、同国の保健医療サービスの向上を始めとした人間の安全保障の確保と社会基盤の改善に資する支援を行い、同国の安定的かつ持続的な社会の構築の達成に貢献することは、外交的意義が高い。

(2) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

パキスタンは、南アジアにおいて乳幼児死亡率、妊産婦死亡率が最も高い国の一つであり、5歳未満児死亡率は81人／対千人と世界的にも劣悪な状況にある（国際連合児童基金「世界子供白書2016」）。パキスタン政府は国家政策「Pakistan Vision 2025」において、社会セクター開発を柱の一つに掲げ、保健分野については、保健サービスへのアクセス改善を重点課題としている。特に、国民の約3割が貧困層と言われる同国において、医療費が安価な公的医療機関の強化が重要となっている。しかしながら、2011年の保健行政の地方分権化以降、各州・地域における保健医療サービスは、高まるニーズに質・アクセス両面で追いついておらず、医療施設の老朽化や人材の不足といった課題を抱えている。

パキスタン医科学研究所は、首都イスラマバードに位置し、総合病院、小児病院、母子保健センター、看護短大、医療技術短大等から構成される医療複合施設である。同研究所は国内有数の公的第三次医療機関であり、首都周辺に加え、隣接するパンジャブ州、ハイバル・パフトゥンハー州といった遠方からの搬送受入も行っている。1988年に約5千人であった入院患者数は、2016年には6.8万人に、外来患者数も40万人（1988年）から120万（2016年）に増加しており、研究所の役割は重要性を増している。我が国は、1980年代より同研究所内の小児病院、母子保健センター、教育施設への支援を実施している。右支援にて整備した医療機材の一部は現在まで使用されているものの、経年劣化等に伴い故障・修復が度々生じている。また、患者数の増加

に伴い、小児病院、母子保健センターにおいて、手術室や病床が不足しており、時宜を得たサービス提供が困難となっている。パキスタン医科学研究所機能強化計画（以下、「本事業」という。）は、国内有数の第三次医療施設において、医療機材を整備し、また、小児病院、母子保健センターの手術室・病床を拡充することにより、質の高い医療サービスへのアクセス改善に貢献するものであり、同国の開発戦略においても優先度の高い事業と位置付けられる。

（３）保健セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

対パキスタン国別援助方針（2012年4月）では、重点目標として「人間の安全保障の確保と社会基盤の改善」を掲げ、ポリオ対策を含む地域の保健医療サービスの向上が重要であるとしており、本事業は同方針に合致する。

（４）他の援助機関の対応

同国の保健セクターについては、世界保健機関、国際連合児童基金、アメリカ合衆国開発庁、英国開発庁といった援助機関が、母子保健、一次医療、ポリオ対策、定期予防接種分野を中心に、政策・制度、技術面での支援を行っている。パキスタン医科学研究所では、現在他ドナーからの支援は行われておらず、本事業との重複はない。

（５）本事業を実施する開発政策上の意義

本事業は、国内有数の第三次医療施設であるパキスタン医科学研究所において、医療機材の整備及び小児病院、母子保健センターの拡充により、保健・医療サービスの質の向上を図り、もってパキスタンにおける人間の安全保障の確保と社会基盤の改善に寄与するものであり、同国の開発政策及び我が国の協力方針と合致する。また、本事業は、小児病院と母子保健センター用の手術室及び病床の増築、右施設及び総合病院での医療機材を整備することにより、妊産婦の死亡率の減少、新生児及び5歳以下死亡率が減少することが期待されることから、SDGs ゴール3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」に貢献し、無償資金協力にて本事業の実施を支援する必要性は高い。

3. 事業概要

（１）事業概要

① 事業の目的

本事業は、国内有数の第三次医療施設であるパキスタン医科学研究所において、不足・老朽化した医療機材を整備するとともに、小児病院、母子保健センターを拡充することにより、保健・医療サービスの質の向上を図り、もって同国国民の健康増進に寄与することを目的とする。

② 事業内容（詳細は協力準備調査で確認する。）

ア）施設、機材等の内容

- ・施設：手術室及び病床の増築（小児病院、母子保健センターを想定）
- ・機材：画像診断用機材、手術用医療機材等（研究所全体を想定）

イ）コンサルティング・サービス／ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、調達監理、調達機材の運営・維持管理に係る研修

ウ）調達・施工方法：本邦／第三国調達

③ 他の JICA 事業との関係：特になし。

（２）事業実施体制

- ① 事業実施機関／実施体制：パキスタン医科学研究所（イスラマバード）
- ② 他機関との連携・役割分担：特になし。
- ③ 運営／維持管理体制：病院の運営，維持管理はイスラマバード医科学研究所が担うことが想定されるが，協力準備調査により改めて確認する。

(3) 環境社会配慮

- ① カテゴリ分類 ☐A ☐B ☒C ☐FI
- ② カテゴリ分類の根拠：本事業は，「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）上，環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

(4) 横断的事項：特になし

(5) ジェンダー分類：ジェンダー活動統合案件

(6) その他特記事項：特になし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

同国の無償資金協力「イスラマバード小児病院改善計画」の評価等では，患者数の増加に伴う外科手術ニーズ増加への対応，イスラマバード小児病院人材育成戦略（特に神経外科，外傷・形成外科分野）の策定，医療機材の維持管理費用の継続的な確保の重要性が指摘されている。そのため，協力準備調査の段階において，毎年の政府予算からの配分額，実施機関の医療技術レベル，維持管理能力，求められるサービス内容について必要な情報を十分に収集・検討し，事業化を行うこととする。さらに，機材の修理や部品交換などの対応に考慮し，現地における代理店の状況も確認する。なお，高度な医療機材については保守契約の附帯と保守契約完了後の同国管理体制を見据えた機材選定を行う。

以 上

案件地図



イスラマバード特別区パキスタン医科学研究所周辺地図

